

㉓ 立体風地図作り<色紙を重ねて作るジオラマ>

1 子どもたちに伝えたいこと

- ・自分たちが住む町や市の地形が、いかに変化に富んでいるかを知る。
- ・平面の地図を目にする事は多いが、立体的に丘陵や台地、川や平地を製作を通じて実感する。

2 実施時期：年間

3 実施場所：室内

4 対象学年：クラブ活動、中学生

5 関連教科：総合、理科、社会、図工

6 時数：2時限～4時限

7 事前準備

- (1) 学校：木工ボンド、ハサミ、油性ペン（赤）以上班ごと、厚紙（各児童・生徒あたり3枚）、クリアスプレー
- (2) どんぐりクラブ：高度別に印刷した地図（厚紙に印刷する）

8 当日

(1) 準備する材料や道具

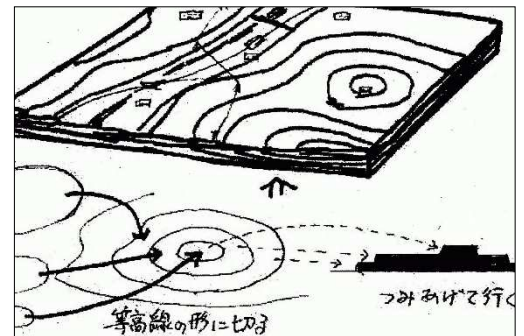
学校：同上

児童・生徒：ハサミ、木工ボンド、鉛筆、絵の具と筆、名前ペン

どんぐりクラブ：同上

(2) 授業の流れ

- ① 高度別の地形が印刷されたボール紙（日野市の場合70m、100m、150m、180mなど）をハサミで切り取る。
- ② 高度順に積み上げ、のりで貼っていく。
- ③ 高度別に色をぬる。
- ④ 主な道・鉄道・川を記入する。
- ⑤ 町並や住宅地、神社・寺・公園・学校を記入する。
- ⑥ 地名や施設名のラベルを作り、貼る。
- ⑦ 出来た立体地図にクリアスプレーを吹きつけ完成。



<製作過程>

9 学習内容

- ・ボール紙に高度別に印刷した材料をハサミで切りとり、高度順に積み上げ立体地図を作る。
- ・作る範囲は、学年や時間数、学習の目的により、下記から選択できる。
<・学校付近(学区内、住んでいる町)、・日野市、・東京、・関東、・日本全体>
- ・学年や時間数により、何段の積み重ねにするか決める。(5段位が良い)
- ・作り方を応用して、ボール紙でなく、紙粘土や砂を使うことも出来る。古い地図も使い、歴史的な変化を現すことも出る。施設や建物などをミニチュア工作で作って、地図に追加して、楽しい地図も出来る。